



Title	生活情報番組“あさイチ”の談話行動に組み込まれる ジェンダー・イデオロギー：批判的談話研究の視点 から
Author(s)	西野, 由起江
Citation	阪大日本語研究. 2022, 34, p. 65-93
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/88191
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

生活情報番組“あさイチ”の談話行動に組み込まれる ジェンダー・イデオロギー ——批判的談話研究の視点から——

Gender ideology in the daily information TV program “Asaichi” :
A critical discourse analysis approach

西野 由起江
NISHINO Yukie

キーワード：批判的談話研究、談話行動、社会的実践、ジェンダー・イデオロギー、性別役割規範、テレビ放送

要旨

生活情報を扱うテレビ番組の談話を社会的実践として捉え、番組のメインテーマを導入・紹介する冒頭部分の談話の詳細分析を行った。NHK 総合テレビ『あさイチ』10 回分の冒頭部分の談話を、名嶋（2015）の「8つの談話行動の実践」の枠組みにもとづいて、第一に「事態の既成事実化の意図」（前提化、権威化、負の側面の焦点化、低評価）が関わり主婦・女性に対する規範を前景化するものと、第二に「事態の非存在化の意図」（焦点のすり替え、事態のすり替え、全体の中での部分化、別事態の焦点化）が関わり主婦・女性に対する規範を背景化するものとに分類し、社会的実践の詳細について分析・考察した。生活情報番組冒頭部分の談話には、主婦や女性に対するジェンダー・イデオロギーの構築と再生産を促す談話行動の実践として、性別役割規範を明らかに肯定する談話実践と、背景化された規範が談話に組み込まれていることを明らかにした。

1. はじめに

近年、多くのテレビ局が「SDGs」の1つである「ジェンダー平等の実現¹⁾」に関する話題を取り上げたり、企業や行政による女性活躍推進法に則った取り組みについて伝えたりしている。しかし、その一方で、女性と家庭を結びつけるテーマを中心とした生活情報番組を編成し、発信している。生活情報番組が伝える情報には、家庭生活に関する情報は主婦向け・女性向けという前提が見え隠れしており、性別役割分業を肯定するメッセージが付与されている。なぜなら「家のことは主婦、女性に」という規範が人々の意識に根強く残っている²⁾ からである。本稿では、生活情報番組の談話³⁾ を、ジェンダー・イデオロギーの構築や再生産を容認・肯定する社会的実践を伴う談話行動と捉え、批判的談話研究の立場から分析を行う。

2. 研究の目的と問題意識

言語とジェンダーの関わりについては、中村（2001）がアイデンティティーとイデオロギーを区別し、前者を「ディスコース実践において能動的に作りあげられる多様なアイデンティティー」とし、後者のジェンダー・イデオロギーを「ディスコース実践の中でつくられた様々な『ジェンダー・アイデンティティー』が、特定の社会の権力関係の中で歴史的に構造付けられたイデオロギー」としている（中村 2001：111）ことが注目される。ジェンダー・イデオロギーとは社会の権力関係の中で構造化されたものであり、「ジェンダーに関して語られたディスコースの累積により、特定の社会において歴史的に作りあげられてきた様々な女性性、男性性、無性性、両生性（ジェンダー・アイデンティティー）が体系づけられたイデオロギーを指す」（中村 2001：115）のである。

その上で、中村（2001：155－163）は、『『消費者としての女性性』はメディアによって具現化され、身体化される』（中村：155）と述べ、ジェンダーの構築に関わるメディアのディスコースとして、ファッション雑誌の記事を取り上げている。雑誌の書き手によるテキストは「想定される読者」を、①前提、②価値観、③欲求、④行為、⑤発言、⑥知識、⑦習慣、⑧行為を可能にする人間関係、⑨製品の所有、⑩技術、によって構成されるアイデンティティーを持った女性として構築していると述べている。中村（2001：161）は「実際の読者がこれらの事柄を『想定される読者』とするかどうかは個々の価値判断によって異なる」と述べている。しかし、不特定多数の読者が「想定される読者」として文化的に構築される女性性に近づこうと努力するため、雑誌のアドバイスを受け取るとしている。この指摘は、メディアにはジェンダー・アイデンティティーを構築する力があることを示すものである。

大原（2002）は、テレビ番組『午後は○○（まるまる）おもいきりテレビ』の相談コーナーの談話を分析している。この番組は、平日正午からの2時間の全国放送で、生活一般を扱う情報番組であった。当該番組には、15分間の視聴者からの電話相談枠があった。相談者が女性で、夫に関する相談内容についての談話を分析資料とし、相談番組の構成と実践されるディスコースにみられる「評価」と「すり替え」という二つの言語行為を軸に、ジェンダー・イデオロギーの再構築の過程に焦点を当てた考察を行っている。夫の不貞行為についての相談の例では相談者、司会者、ゲスト全員の談話が「浮気されたら夫を責めずに自分を磨くことに専念するというジェンダー・イデオロギーの構築（Ohara 2000）」に積極的に寄与していると述べている。相談コーナーの終結部分では毎回相談者が「ありがとうございました」と礼を述べることにより、視聴者に対して、司会者やゲストの評価やアドバイスが有効であったかのような印象を与える可能性があると指摘している。

このように、ジェンダー・イデオロギーの中でもとくに性別役割規範は、テレビ番組を視聴することによって多くの人々の意識の中に常識として再生産されている可能性が高い。本稿では、そのような番組の中でも、日常生活の中に根強く残る性別役割規範の再生産にとりわけ大きな役割を果たしていると考えられる「生活情報番組」の談話行動に注目する。

なお、中村は、生物学的な性差と結びつけられてきた性をジェンダーと引き離して捉える考えを示している。しかし、様々なレベルで語られ、社会や権力者側にとって都合の良い支配関係を維持するためにジェンダーに関するイデオロギーは性差と結びつけられ正当化されている。例えば、三歳児神話と呼ばれる母親にのみ求められる乳幼児への子との密着責任、女性はケア役割を得意とするなどは、生物学的な性差と結び付けられ、イデオロギーが付加されている。ここでは性を女・男に単純に二分することへの問題も含まれている。

3. 分析の枠組み

本稿では、批判的談話研究の立場・考え方を基盤とし、名嶋（2015）の「8つの談話行動の実践」の分類を枠組みとして、情報番組冒頭部分（後述）における談話行動の分析を行う。

3.1. 批判的談話研究

批判的談話研究（CDA = Critical Discourse Analysis）とは「根本的に、言語に現れた支配、差別、権力、管理の、隠れた、不透明な、あるいはまた可視化された構造の分析に関心を抱くと定義できる。言い換えるなら、社会的不平等は、言語使用によって（あるいは談話のなかで）表現されたり、構成されたり、正当化されたりするのでCDS⁴⁾が目標とするのは、そうした社会的不平等を批判的に研究することである」（ヴォダック、マイヤー 2018：18）と定義づけられている。

デイクは「CDA というのは、一定のアプローチ等を指すのではなく、学問を行う上での一つの——批判的な——見解なのである。すなわち、いわば『姿勢を伴った』談話分析だと言える。その焦点は社会問題にあり、特に権力の濫用や支配の生産および再生産における談話の役割にある。可能な限り、CDAは被支配グループにとって最も利益となるような観点から、その談話の役割に焦点を当てるのである」（デイク 2010.134）と述べ、CDAは談話分析を通して権力の意図を見出すことができると示唆している。

また、批判的談話研究では談話（ディスコース）を「他の要素と密接に関係しあっている社会生活の一要素としての言語」（フェアクラフ 2016：4）とし、談話を形成する言語を社会構造の一部と捉えている。フェアクラフは社会構造を抽象的な実態ととらえ「構造と出来事の間に

中間的な組織的な実態がある。この中間的な組織的な実態を『社会的実践』と呼ぼう」（フェアクラフ2016:30）と述べている。

3.2. 名嶋（2015）の「8つの談話行動の実践」の分類

名嶋（2015）は、原発事故に関する新聞記事報道に、記事の執筆に関わる権力を持つ「第三者」の「意図」がどのような形で組み込まれているのかを明らかにするために、毎日新聞・東京新聞・朝日新聞・読売新聞・産経新聞の見出しを対象とした研究を行っている。「多くの見出しには権力による何等かの意図が介在する余地があり、そのある意図に動機づけられた談話行動が行われている」（名嶋2015：203）と述べ、8つの談話行動の実践を以下、1）、2）の2つのグループに分類している。以下は、引用者によるまとめである。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）の意図が関わるもの

共通の実践：本来の事態を前景化する（見せる）

- a. 前提化…お互いにとって当たり前のこと、知っていることを前提とした談話行動。
- b. 権威化…名声や名誉的地位等を付記し、権威を付与する意図をもった談話行動。
- c. 負の側面の焦点化…焦りや困難をもたらす要因に焦点を当て、人々を短絡的にさせたり保守的にさせたり、逆に「何とかしなければ」という気持ちにさせようと考えられる意図や談話行動の実践。
- d. 低評価…ある事態や影響を低く見積もり既成事実化を達成するために選択される意図や談話行動の実践。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）の意図が関わるもの

共通の実践：本来の事態を背景化する（見えなくする）

- e. 焦点のすり替え…ある事態を報じる際に、心温まる「美談」的側面に特に焦点を当てたり、同情や哀れみを誘う「悲話」的側面に焦点を当てたりし、当該事態本来の姿が見えにくくする。その事態をあたかも別の事態であるかのような解釈を可能にするもの。
- f. 事態のすり替え…一つの事態の中で焦点をすり替えるのではなく、本来の事態とは異なる別事態にすり替え、権力がその事態に関わっていないかのような解釈を誘発する意図や談話行動の実践。
- g. 全体の中での部分化…当該事態を「部分化・矮小化」してしまう意図や談話行動の実践であり「全体の中への拡散」となるもの。
- h. 別事態の焦点化…当該事態とは表面的に無関係に見える別事態を繰り返し報道し（伝

え)、事態が収束(名嶋 2015 では原発事故のことを指している)しているような解釈や印象を持たせるもの。

(名嶋 2015 : 203-229 の引用者によるまとめ)

名嶋(2015)は、新聞の見出しでは「本来の事態を前景化する(見せる)」「本来の事態を背景化する(見せない)」という2つの動的な談話行動が用いられ、前者では「事態の既成事実化(存在の容認)」、後者では「事態の非存在化(存在の非容認)」という対局的な意図に動機付けられた、あわせて8つの(上記a~h)の談話行動の実践が、読み手にそれぞれどのような影響を与えているかについて論じている。

「事態の既成事実化」では、権威化するために「一定の高い地位を有していたり名声を博していたり名誉的地位であったりする人物や組織が、原発事故そのものや事故の負の影響を否定するかのような言動をとったことを報道する」(名嶋 2015 : 209) 例を挙げている。

「事態の非存在化」では、焦点をすり替えるために「ある事態を報じる際に、心温まる『美談』的側面に特に焦点を当てたり、同情や哀れみを誘う『悲話』的側面に特に焦点を当てたりすると、当該事態本来の姿がみえにくくなる。焦点をすり替えることで、その事態をあたかも別の事態であるかのように解釈させることが可能になる」(名嶋 2015 : 218) と述べている。

また、見出しに含まれる巧妙な権力側からの意図にもとづく、既成事実化や非存在化を強化する談話行動の実践は、読み手(受け手)に対して個別の効果を達成するだけではなく、「心理的な分断」装置として人々を無関心へと導く機能になると説明している。「権力によって意図され実践された既成事実化・非存在化を強化する談話行動として、読み手の内部において権力に関わらない形で機能し続け、テキストを読むという実践を行うたびに更なる『心理的な分断』を引き起こし、よりいっそうの『風化』や『忘却』も読み手の心内において再生産されるということである」(名嶋 2015 : 235)。ここでは、新聞の見出しを通して浸透していく権力側の意図を、言語研究の取り組みによって読み解く姿勢を示す必要性が主張されている。

前述したように、本稿では、大きくは批判的談話研究の立場・考え方に依拠しつつ、具体的には名嶋(2015)の上記の分類を枠組みとして分析を進める。その理由は、名嶋(2015)が対象とした新聞の見出しと本稿が対象とする情報番組の冒頭部分とが、ともに記事や番組の内容をコンパクトに提示・予告するという点で共通しており、情報番組の冒頭部分にも、名嶋(2015)が新聞の見出しに読み解いたような「権力側の意図」に通ずる「発信者側の意図」が浸透していると予想されるからである。また、両者は、当事者とそうではない人々の間に分断を生じさせる談話行動の実践が行われているという点でも共通している可能性が高い。生活情報番組では、性別役割規範を実践する当事者と、それを傍観して受け入れる立場の者との間に

分断を生じさせる。前者に対しては能動的に、後者には受動的に規範を再生産する談話行動の実践が行われている。このことを明らかにするために、性別役割意識の容認へと導く力や意図の働きについて、5節から名嶋（2015）の枠組みをもとに詳細な分析を行っていく。

4. 対象とする番組と談話

分析の対象は、NHK総合テレビで2016年度に放送された生活情報番組『あさイチ』10回分の冒頭部分の談話である。同番組は、毎週月曜日～金曜日の午前8時15分～午前9時54分に放送され、日本全国で同時刻に視聴可能である。また、この時間帯の視聴者は、家事の中心的な担い手であることが多いと考えられる。

番組では、取材や専門家の解説によって掘り下げられる特集の事を「メインテーマ」と呼んでいる。生活情報だけではなく、社会問題やエンターテイメント情報もメインテーマとして選ばれるが、どのテーマも“主婦のみなさんが一番気になるテーマ”であることが当時のホームページ⁵⁾に示されている。本稿では、後述するように、特に日常の家庭生活に関するテーマを取り上げた放送回を対象とする。

進行役はNHKアナウンサー（女性）とタレント（男性）で、NHK解説委員（男性）が加わることもある⁶⁾。また、情報の説明部分ではナレーターまたはコーナー進行役としてNHKアナウンサー（女性、男性）やタレント（女性、男性）が起用され、専門家（女性、男性）による解説や取材映像、再現VTRが挿入される。スタジオではタレント（女性、男性）や一部、出演に応募した一般視聴者（女性）も加わり、メインテーマに関する情報が送り出される。このスタイルは、現在もほとんど変わっていない。

対象とする放送回は、調査年度の4月から6月、10月、3月にわたり、トークやプロのシェフによる料理実演、旅、災害による特集を除いた、通常放送時に取り上げられた生活情報に関するテーマの中から、重複しない内容の回を選んだ。それぞれのデータは、録画した番組の発話を聞き取り、文字化を行った。『5.4.2. 親が心配、初動が肝心、介護ははじめの一步』を除き、NHK番組アーカイブス学術利用トライアル（2016年9月～10月）を利用し、NHK大阪放送局内にて閲覧し内容の確認を行ったものである。また、データ収集当時の当該番組ホームページには“主婦の皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ”と明記されていた。現在は、当該番組のホームページから主婦という表現は削除されている。しかし、進行役が交代した今でも生活情報として実用的なテーマ（料理、掃除などの家事全般、家族、子どもの教育）は継承されている。どのテーマにおいても主婦あるいは女性が家庭生活の中心にいる人、という性別役割規範は肯定されていると考えられる。

本稿でいう「冒頭部分」とは、情報提供を行う構成上の本体への関心を引き込むための部分である。ここでは、当日取り上げられるメインテーマについての、発信の目的、誰にむけての情報なのか、何を具体的に扱うのか、なぜ扱うのか、が示される。具体的には、本題に入りスタジオ画面に切り替わる直前までの部分を指す。ここでの談話は、番組進行役、ナレーターあるいはリポーターによる発話や、事前に編集された取材VTR、一部専門家による発話で構成される。

5. 生活情報番組『あさイチ』冒頭部分の談話行動

以下、上述した『あさイチ』10回分の冒頭部分の談話を分析していく。各回のタイトル（メインテーマ）と放送日に続いて、文字化された談話（通し番号（1）～（10））を示し、その上で、性別役割意識に関わる談話行動が行われている発話（談話の下線番号部分）について名嶋（2015）の8つの意図・談話行動のまとめ（名嶋 2015：231）を参照した分類を行い、1）「事態の既成事実化」と2）「事態の非存在化」のそれぞれにおいて主婦や女性に対するイデオロギーがどのように組み込まれているかを示していく。なお、ここでは、各回のメインテーマを「家計」「家事（掃除・料理）」「生き方」「家族」の4類にまとめて提示し、各回の分析とは別にこの4類の上位テーマごとにもまとめを述べる。

談話の文字化データには、各発話冒頭の〔 〕内に話者の属性と性別（女性をf、男性をm）を示し、属性と性別が同じ話者が複数いる場合はそれぞれの識別番号を付記した。属性には、石井（2013：4）の職業的な分類（〔1〕アナウンサー類、〔2〕タレント類、〔3〕専門家類、〔4〕一般人類）を採用し、ナレーターのみ〔1ナ〕のように記した。言い間違い、言いよどみはそのまま文字化したが、あいさつなどの短い発話は情報発信に影響を及ぼさないため省いている。なお、発話内に出現する個人名はイニシャルに置き換えている。

5.1. 「家計」に関わるテーマ

5.1.1. 『どっちが得？ 今こそ知りたい住宅ローン』2016年4月25日放送

（1）

〔1fナ〕 ①憧れのマイホーム。②でも先立つもの、お金ですよー。

〔3m〕 ③これから家を買う人に、お得情報です。④マイナス金利の影響で住宅ローン金利が過去最低水準になってるんです。

〔1fナ〕 得をするのは⑤新たにローンを組む人だけではないんです。

〔1fナ〕 こちらは住宅ローンの借り換えセミナー。⑥すでに住宅ローンを組んでいる人が別

の金利の低いローンに借り換えをすると、返済するお金が減る可能性があるんですー。でも、ほんとうに安くなるのー？

(取材VTR開始)

[4f 1] ⑦かなり安くなって、びっくりしています。

[4f 2] ⑧最終的にはやっぱ200万です。

[4f 3] ⑨絶対、借り換えなきゃと思います。

[4m 1] ⑩金額はねえ、えー100万円ぐらい。

[4m 2] ⑪手にはいるものは変わらないわけじゃないですか。ね、ですからやっぱ少しでもやすく手にいられるならそれに越したことはないですから。(取材VTR終了)

[1fナ] 借り換えってお得？ でも、⑫やり方を間違えると損をすることもあるんです。そこで今日は、上手な金利の選び方、お得な借り換えのコツ、そして⑬住宅ローンで老後破産しない方法をお伝えしますよー。 ⑭損しないためにもついてきてよ。

1) 事態の既成事実化

①②では、高価であっても誰もがマイホームを持ちたいと願っていることを「a. 前提化」し、規範的な家族（異性同士の婚姻、子どもを産み育てる）を肯定している。④の金利が過去最低になっているという発信は専門家によるものであり、政府の公的な金利政策に基づく「b. 権威化」された情報として、家計を預かる主婦⁷⁾に対して有益な情報だと呼び掛けている。⑪では、多くの国民の所得（収入）には限界があることと、⑫の住宅ローンを大きな支出として「c. 負の側面の焦点化」を行っている。これにより、返済額が減ることにつながる情報を重要だと位置付けている。ここでの所得は世帯収入を示しており、家族単位の世帯収入の管理を任される主婦に対して、家計に損を与えないために教えを受け、何とかしなければならないという気持ちを抱かされる。⑭では、情報さえ知れば損をせず、今が新規借り入れやローンの見直しの好機だとする既成事実化を達成するためにローンの危険性を「d. 低評価」している。

2) 事態の非存在化

③では、マイナス金利政策を個人消費者にとっては住宅購入の好機とする「f. 事態のすり替え」が行われ、政策の本来の目的や策定の背景は語られていない。⑤⑥では、情報提供の対象をローンに関心のある「g. 全体の中での部分化」に属する人としながらも、全ての視聴者に対して政府の金利政策の周知を拡散する意図がうかがえる。⑦⑧⑨⑩の借り換えセミナーの参加者（[4] 一般の人）の声は、情報に対する期待を高めるための「e. 焦点のすり替え」である。⑬では住宅ローン金利の話が、将来の老後破産にまで発展し、人生設計に関わる問題だと示唆

する「h. 別事態の焦点化」である。老後のためにも、主婦による家計管理は重要だという圧力を与えている。

5.1.2. 「家計」に関わるテーマに介在する意図

家族を持っている人であれば、だれもがマイホーム購入を望んでいる、という前提が共有されており、マイホームは規範の家族制度を象徴する。ここでは、マイホーム購入を実現するためには長期のローンを組むことが当然だという前提が前景化され、政府によるマイナス金利政策の概要は説明されず背景化されている。家計管理をする主婦に対して、今が借入れの際の金利が安い好機だと呼び掛けることにより、間接的にマイナス金利政策を肯定的にとらえるように導いている。

5.2. 「家事」に関わるテーマ

5.2.1. 『スゴ技Q知って得する図書館活用術』（2016年4月26日放送）

(2)

[1fナ] ①間もなくやってくる大型連休。今回「あさイチ」がおすすめするのは一水族館、美術館？ それとも博物館？ いえいえこちらの館。ここは？

[2m] 図書館です。

[1fナ] そう、②実は最近の図書館はまるでアミューズメントスポット。たとえば館内のカフェで図書館の本を読みながらコーヒータイムが楽しめたり、明治のレトロな雰囲気を楽しんだり、屋上庭園で自然の空気を満喫したりできるんです。でも図書館の良さはそれだけじゃありません。③図書館には暮らしのお困り解決の達人がいるんです。それは一司書。④この人たちに頼らないなんてもったいない。

[3f] ⑤料理から子育てまで、生活の疑問ならなんでもお聞きください。

[1fナ] 例えば、⑥おいしい煮付けのコツ。意外な本からお得な情報を教えてくれたりするんです。煮付けの作り方、こちらにあたりします。子どもを早起きさせる方法など、育児のお悩みもお任せ。⑦プロの目で本を選び無料で解決のための情報を探してくれるんです。朝なかなか起きなかった子どもも、図書館の本のおかげでこの通り。

[4f] 意外とさっくりはまったので、はい、もっと早くこーご本の紹介してもらってたらいいなーとは正直思いました。

[1fナ] ⑧読み聞かせの達人が教える技を使えば、どんな年齢層の子どもだって、読み聞かせに夢中。

[1fナ] 活字嫌いななんてありえない。子どもがどんどん本を読みたくなるスゴ技も図書館が

伝授。

[1fナ] さらに。⑨日本最大の図書館が実践する本を後世に残すための保管方法もバッチリ見せてもらいます。今日は⑩身近な図書館の知って得する活用術をたっぷりご紹介します。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では子どもや夫がいる主婦は家族の予定を調整⁸⁾し、大型連休中の出掛け先を考える立場にあるという「a. 前提化」が行われている。③⑦⑧で、司書のことを「達人」や「プロ」と呼び、⑨では図書館の規模や保管方法を「b. 権威化」している。③ではまた、暮らしの困りごとを「c. 負の側面の焦点化」することにより、主婦に解決を促している。主婦が暮らしの困りごとを放置することへの罪悪感をあおるものである。⑩では、主婦はお金をかけて遠くへ出かけないという前提が示されており、主婦の労力を無償と見なす「d. 低評価」が行われている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

①の大型連休を迎える視聴者に対する呼びかけでは、休暇の無い人、非就労者は除外されている。②では、図書館を大型連休中に出掛けるに値する魅力的な場所として紹介しながらも、主婦に対して、普段から図書館の司書を活用して生活情報を得ることを勧める「h. 別事態の焦点化」が図られる。③の「暮らしにお困り」が指す対象は、生活に困窮している人を指すのではなく、主婦や家庭生活者による「家庭での暮らし」に限定する「g. 全体の中での部分化」が行われている。④の、司書は本のことを知るプロであるという情報は、⑤での司書による発話「生活の疑問ならなんでも」によって、生活情報を教えてくれる人として「f. 事態のすり替え」が行われ、⑥によって、家庭料理のコツを教えてくれる人へと「e. 焦点のすり替え」が行われる。司書は、家庭や家族のために役立つ情報を主婦に教えてくれる人と位置づけられてしまう。家事や家庭生活に関する情報提供者であること以外の専門性はここでは説明されない。

5.2.2. 『スゴ技Q 身の回りピカピカ大作戦』 2016年5月10日放送

(3)

[1fナ] ①今まで色々なものをピカピカにしてきた「あさイチ」が自信をもってお届けするのは、身の回りのくすんだものをピッカピカにするスゴわざです。②お悩みの方が多い浴室の鏡。③家庭にある意外なものをつかうとわずか10円程度で汚れはもちろん、くもりも解消できるんです。

[4f] ④ピカピカです。

[1fナ] そして⑤落ちにくいガラスのくもり。⑥日本一のソムリエが、フランス直伝の技を

使えば10円あまりでこのとおり。

[4子ども] ⑦ピカピカ。

[1fナ] ⑧今年の流行色誰もが1枚持っている定番の白シャツ。⑨買った時に比べなんだかくすんでしまったシャツも⑩達人おすすめの洗濯方法なら、⑪なんと1円ほどで白さをとりもどせます。さらに⑫洗濯王子の手にかかれば。⑬どうしてもシワがさけられないシャツのアイロンがけも。

[3m] ⑭ピッカピカ。

[1fナ] ⑮明るい日差しが差し込み汚れが目立つ今こそスゴ技を使ってピカピカに過ごしませんか。まずは鏡のお悩みから。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では、番組がこれまで紹介してきた“スゴ技”は掃除（家事）に役立つ情報であると示されている。①の「身の回りのくすんだものは放置せず」、⑬「シャツにはアイロンがけが必要」といった手抜きのない家事をすることが、主婦には求められることを「a. 前提化」している。⑥では、ガラスのくすみに関しては日本一のソムリエという名誉ある人がもつフランス直伝の技に対し、⑩⑫では洗濯に関しては名声のある洗濯王子の技に対して「b. 権威化」が行われ、家事には権威ある技を使うことさえも期待されていることが示される。②⑤⑨⑬では、放っておいてはいけない家事を「c. 負の側面の焦点化」することにより、これらの家事は主婦が解決すべき事柄だと位置付けている。③⑥では、権威ある人の価値の高い技を、身近な道具で安価に活用することに価値があると強調している。主婦が行う家事にはお金をかけないことが重要であり、主婦の労働は有償労働ではないという「d. 低評価」が付与されている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

②の家の中のくすみや汚れの原因は、家事の不手際によるものとして扱われ、家族による使い方の問題には触れられず「f. 事態のすり替え」が行われている。④⑦⑭では女性（主婦・視聴者）、子ども、洗濯王子（専門家）それぞれ違う立場の者が「ピカピカ」の状態を称賛し、ピカピカな状態は誰にとっても快適だということが示される。主婦の家事労働への対価は有償ではなく家族から受ける無償の称賛だという「e. 焦点のすり替え」が示されている。⑧では、女性は流行に敏感な消費者だというジェンダー観が示唆されている。⑮の、明るい日差しが差し込む今の季節にこそ掃除を行うべきだという「h. 別事態の焦点化」には、主婦は家事の手を抜くべきではないという規範が隠されている。

5.2.3. 『もっと得する！フライパン向上委員会！』2016年5月25日放送

(4)

[1fナ] 思い出してください。①最近、夫と手を繋いだのはいつですか？今日はあなたの夫や子どもより親密なあの彼の話をしましょう。

[2m] 奥さん、今日のテーマは僕だよ。あなたは誰って、そんなこと言わないでよ、②僕だよ。毎日手を繋いでるじゃないか。

[1fナ] ③あなたにもいますよねー毎日手を繋いでる彼。そう④キッチンの恋人、フライパン。⑤フライパンコーナーをのぞけばいろんなタイプの彼がずらり。目移りしちゃいますよー。例えば今、売り出し中のセラミックコーティングの彼。いいですよー。さあこっちは、ダイヤモンドコーティング。ダイヤモンド、なんていい響きなんじゃないかな。みなさんのお宅にいるのは、どんな彼ですか？

(取材VTR開始)

[4f 1] 彼二人います。頼りになります。

[1fナ] やっぱりみなさん、アルミ製のフッ素樹脂加工。お手軽で使いやすいですよー。でもーこんな不満も。

[4f 4] ⑥はげてきちゃったら、おしまい、お別れかなと。使い捨てかなと思ってます。

[4f 5] ⑦捨てちゃいます。

[1fナ] ⑧みんな、見切りが早い。⑨6割以上の方が一年で買い替えを考えるんだそうです。

[4f 7] ちょっと⑩もったいないとも思うけど。

[4f 8] ⑪もったいないなーって気もするけど。(取材VTR終了)

[1fナ] ⑫罪悪感もあるんですねー。ならば⑬今使ってる彼ともっと長く手を繋いでいられる方法を見つけて行きましょう。今日は、キッチングッズ向上委員会第一弾。⑭あなたのフライパンを使いやすくするお得な技の数々をご紹介します。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①②③④では、主婦が料理をする際に使用するフライパンを彼（男性）と擬人化し、毎日主婦が料理をするを「a. 前提化」している。⑧⑩では捨てる行為を「c. 負の側面の焦点化」し、罪悪感を生起させ、長く使い続けることへの偏重を促している。主婦は家事道具を大事に使うべきだという規範が前提にあるためである。⑫では、買い替えることに対して「d. 低評価」を与えて罪悪感を抱かせている。⑭では、あなたである主婦のフライパンを使いやすくする情報を「b. 権威化」し、主婦にとって有益な情報であることを示している。主婦は料理をする人、料理の道具は大事に使うべき、という主婦に対する規範が前景化されている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

⑤では、フライパンにはたくさんの種類があり魅力的だということが紹介されながら、現実には、視聴者の家にあるフライパンは料理をする主婦が選ぶ「h. 別事態の焦点化」が示されている。商品として、様々な種類のフライパンがあることは、主婦が料理をすることは別次元のことである。⑥⑦では、フライパンの状態が劣化することを「f. 事態のすり替え」により、フライパン（＝彼）を捨てる、別れるという表現に置き換えている。また、経年劣化を夫の外見の変化に見立て、主婦の間で共有されるエピソードにすり替えている。⑨⑩⑪では、過半数を多いと捉え、一年を短いと判断して部分を切り取る「g. 全体の中での部分化」を行っている。また、もったいないと感ずることを、全ての人が許容している価値判断として扱っている。⑬での、若い男性に擬人化された“フライパン”と長く付き合うことは、道具を長持ちさせ、いつまでも主婦が料理し続けることを意味する「e. 焦点のすり替え」である。

5.2.4. 『家事も恋も？ 今こそ知りたい“人工知能”』 2016年5月30日放送

(5)

[1fナ] ①人工知能を備えたPです。去年発売されるとわずか1分で完売。はい、本当のことなんです。(VTR会話略)

[1fナ] あの一②今の人工知能は感情豊か。コミュニケーションもとれるのが人気の秘訣です。③でも私には関係ないし～と思っているあなた。④お手元のスマートフォンにこんな機能ついてませんか？

[1fナ] お腹が空いた、ということ声を認識してオススメの飲食店を教えてくれるのも人工知能の働きです。近い将来、⑤人工知能で暮らしが激変、するかも。

[2f] 何か献立ある？

[2人工知能] 今冷蔵庫にある野菜と組み合わせればこんなメニューができますよ。

[1fナ] こうして⑥日々の献立を考えてくれるだけでなく、⑦突然の災害に襲われたとき、人工知能が家族の安否を確かめる技術が開発されています、はい。というわけで⑧今日のテーマは人工知能。これからの時代暮らしに役立つこと、間違いない。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では、ロボットのPがわずか1分という早さで売り切れたことにより人工知能への関心の高さが示され、情報への「b. 権威化」が行われている。③での“私”は主婦を指している。女性性、人工知能や最先端技術などを苦手とするジェンダー・バイアスが前提にある。⑤の“暮らし”は家庭生活を意味しており、主婦にとって有用な情報であるという「a. 前提化」が示され

ている。⑦では災害時を「c. 負の側面の焦点化」することで、人工知能の力を借りれば家族の安否を知ることができ、家族との繋がりを確保できると強調し、家族の安否確認は主婦にとって重要であることが示されている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

②では、無機質なものは否定され、感情豊かであることが肯定され、そしてコミュニケーションがとれることが強調される。これらは女性・主婦向けの機能と決めつけるための「h. 別事態の焦点化」である。④での身近なものを例にあげる「g. 全体の中での部分化」によって、人工知能の複雑な情報は背景化され、生活情報の範疇となる。⑥では、人工知能は毎日の献立を考えてくれるなどの家事軽減をもたらし、主婦にとってはありがたい技術とする「e. 焦点のすり替え」が行われている。⑧では、人工知能の機能を知することは、将来においても家事の利便性が向上する「f. 事態のすり替え」が行われている。しかし、人工知能を使う未来においても家事は主婦の仕事だという規範は根付いたままである。

5.2.5. 『冷凍食品完全マニュアル』2016年10月31日

(6)

[1fナ] パラッパラの焼き豚チャーハンに、しこしこの讃岐うどん。餃子も肉汁たっぷり、どれもおいしそー。実はこれ、みーんな冷凍食品。①ここ数年、進化がめざましく、今やどれもお店顔負けなんです。とはいえ冷凍食品といえば。

(取材VTR開始)

[4f 1] ②こっちはまだ冷たいのに、こっちはすごく熱かったり。

[4f 2] ②' コロケとかであの一、揚げるの上手じゃない。

[4f 3] ②"解凍しすぎちゃったとかやりすぎてペシャットした。(取材VTR終了)

[1fナ] と、なにかとトラブルが多いイメージ。でも、でも③正しく扱えばいつもの冷凍食品が、あっと驚く魔法のような一皿に変身しちゃいます。そして、④工場の最新マシンがプロの技を完璧に再現するのを発見。すごいでしょ。⑤味がいまいちーと感じるのは、実はあなたの扱い方のせいかも。そこで今回、冷凍食品の真の実力を探るため、強力な助っ人を依頼。⑥冷凍食品の業界紙に関わって35年。冷凍食品のゴッドマザーYさんです。さて、さっそくYさんとともに⑦冷凍食品をよく使うという主婦の方を訪ねました。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では冷凍食品の進化に対する「b. 権威化」と「a. 前提化」が行われ、②の女性たちのイン

タビユー回答は、冷凍食品に対する「d. 低評価」を示している。また、料理の担い手は女性であるとする「a. 前提化」を行っている。④では、冷凍食品がおいしくなっていることに対して権威化を行う一方で、⑤で、冷凍食品の味に対する評価を低くする要因は料理をする“あなた”にあるとする「c. 負の側面の焦点化」が行われ、主婦は対策をとるべきだと示唆している。⑥での、冷凍食品に詳しい専門家をゴッドマザーと呼ぶことは、専門家であり主婦である立場に対する権威化である。⑦により料理作りの担い手が主婦であることが「a. 前提化」されている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

③の、利用者が正しく扱えば冷凍食品は魔法のように便利に使えることの説明は、冷凍食品の活用法に焦点を当てる「e. 焦点のすり替え」であり、料理作りの担い手は主婦だという規範はゆるぎないものとなっている。⑤の、冷凍食品を使った調理がおいしくないのは主婦による扱い方のせいであるという指摘は、主婦が料理を作ることを当然のこととして扱う「f. 事態のすり替え」である。⑤での終助詞「かも」によって、誤った使い方をしてきたことを「g. 全体の中での部分化」として過小評価し、料理の失敗は大したことではなく、料理を作り続けることを主婦の役割として規範化している。主婦以外の人が日常的に料理を作ることは想定されていない。

5.2.6. 「家事」に関わるテーマに介在する意図

『スゴ技 Q 知って得する図書館活用術』は、料理から子育てまで暮らしの中で生じる困りごとに直面する機会が多く、おいしい煮つけのコツなどの誰かのために日常的に料理作りをする主婦を対象とした家事活動についての情報である。司書は、暮らしの中で生じる困りごとを解決するために無料で情報提供してくれる専門家として紹介される。主婦に対しては、暮らしの中で生じる困りごとを解決するためであっても、家計管理を担う立場から、お金をかけないことが望まれる。ここでは、主婦の家事労働は無償であるという前提を既成事実化する意図が介在している。

『もっと得する！フライパン向上委員会！』では、主婦は毎日のようにフライパンを使って料理を作る人としての性別役割が容認されている。また、[4f 1] による発話「**彼二人います。頼りになります**」では、男性は頼りになる存在というジェンダー規範を認める意図を含んでいる。

『家事も恋も？ 今こそ知りたい“人工知能”』では、将来、人工知能の活用によって「家族の安否確認」や「料理の献立を考える」ことが可能になり、主婦の家事労働の軽減につながる情報提供とされる。しかし、未来においても家事を担う主体は主婦である、という前提は揺るがないままである。

『冷凍食品完全マニュアル』では、料理を作る全ての人に向けての情報提供ではなく、冷凍食品をよく使う主婦が対象である。料理は主婦の仕事であるという性別役割分業を既成事実化している。

5.3. 「生き方」に関わるテーマ

5.3.1. 『のぞいてみました！あの人のタイムスケジュール』 2016年4月27日放送

(7)

[1f ナ] 本日も「あさいち」をご覧くださいありがとうございます。①忙しい朝の間に誠にありがとうございます。例えばこちら、②主婦のKさん。毎朝5時に起きて朝食の準備をしています。ゆったりと朝ごはんを食べようと思っても。あーあとちょっとだったのに。

(取材VTR開始)

[4f 2] 主婦向けの雑誌ってのによく載ってらっしゃるからちょっと③現実的とはちょっと違う。

[4f 3] ③' お友達でもすぐ髪の毛くるくるって巻いてきていつやる時間あるのって。

[4f 4] ③" いっぱい離乳食はじまりましたーって何品も何品も載せてあって。でも実際に言って、そんな離乳食何品も作る時間がないよ。(取材VTR終了)

[1f ナ] 本当にみんなタイムスケジュール通りうまくやってるのかしら。もし本当なら、実際にやっているところを見せてほしい。てことで、④気になるあの人たちに定点カメラをしかけ24時間のぞいてみちゃいました。例えば⑤三人の子どもを持つこちらの主婦。⑥毎日おかずたっぷりの朝ごはん。これ20分で作っています。これだけじゃありません。毎日朝ドラの世界にがっつり浸る優雅ぶり。秘訣はたった一つ、あることを決めただけなんです。さらにこちら、⑦正社員として働いているママさん。⑧朝食は、二人の子どもと夫、家族みんなでゆっくり。しかも夜の7時半には全ての家事が終了。毎夜、家族団らんです。ほんとです。⑨実はみなさんもあれをやめるだけでイライラする忙しさからぬけ出せるんです。さあそしてこの人もプライベートを大公開。⑩そう今大人気のTKさん。何をしているのかそれはこの後のお楽しみでーす。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では、朝の時間は誰もが忙しいが、とくに主婦は忙しいことを「a. 前提化」している。②③では、早起きをして朝食を準備しても、ゆったりと朝食をとることができない一般の主婦と、雑誌などに載っている主婦を比べ、普通の（とされる）主婦は時間管理ができないという前提を作り出している。普通の主婦に対する「d. 低評価」を行うことにより、タイムスケジュール

通りに生活する人への評価を高めている。⑤⑦⑩で紹介されるタイムスケジュール通りに生活を送ることができる主婦三人は、子どもを三人持っている主婦、正社員（仕事による拘束時間が長い）で子どもを持つママ、そして名前を出すだけで大人気とわかる人名が紹介され、それぞれの立場と忙しさに対する「b. 権威化」が行われている。⑨では、イライラするという負の感情に焦点をあて（「c. 負の側面の焦点化」）解消する方法を知るべきだと示唆している。主婦がイライラする感情を抱くことを否定する意図が働いている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

④では、忙しいはずなのに生活にゆとりのある人たちを取り上げ、主婦の忙しさを矮小化（「g. 全体の中での部分化」）している。⑥では、朝食に手間をかけることを称賛し、家族のためにおかずの多い朝ごはんを作るためにも時間管理は重要であると述べている。時間管理は、主婦個人のために行うのではなく、家族のための食事作りに費やす時間を確保するためであるという「f. 事態のすり替え」が行われている。また、20分で作くという表現は、手間がかかるおかずをわずかな時間で作っているのか、時間をかける余裕があることを指しているのか曖昧な表現であり、視聴者の判断を二分する。⑧では、朝は家族みんなでゆっくり朝食をとり、しかも毎夜、家族団らんの時間があることを称賛している。主婦にとっての時間管理術は、家族の時間を確保するための時間管理術へと「e. 焦点のすり替え」が図られている。家族は、一緒に過ごす時間を持つべきという「h. 別事態の焦点化」が示されている。

5.3.2. 『いつかあなたも？ イマドキシングルライフ』 2016年6月1日

(8)

[1fナ] ①40代女性の4人にひとり。これ何の数字かわかりますか？ 実は、結婚していないシングル女性の割合なんです。去年結婚した男女の数は戦後最少を更新。②もっとも多かった昭和47年に比べると何と4割も少なくなっています。確かに最近、結婚しない3、40代のシングル女性が主人公のドラマ、目立ちますよね。先日大きな反響をよんだ、子どもがいない生き方でも、放送中こんな声をいただきました。③「44歳未婚です。子どもがいない生き方に加え、結婚しない生き方も取り上げて欲しい。今は生き方を選べる。当たり前ではなくなってきたのです。」結婚している方は、シングルライフをどう思っているのでしょうか？

(VTR取材)

[4f 1] あります、ありますね。

[4f 2] ありだと思います。

[4f 3] 自分の子ども、娘とかをみてて、結婚できるかな？ と思っちゃうんですね、で、もし彼女が結婚できない、ま、しない人生を選んでも、それはそれで素晴らしいと思うから。

[4f 4] ま、夫が先になくなって、子どもが遠いところに行ってからってのもあります、それなりの人生の準備はしておこうかなーとは思いますが。（VTR終わり）

[1f ナ] ④そう子どもの将来や夫との死別。シングルライフ、⑤主婦にとっても決して人ごとじゃない、かも。そこで今回は、女のかもねと題して、シングルライフではこんなことができるかもを探してみると。⑥シングルでも無理せず、夢のマイホームが買えるかも。今、年収や仕事にかかわらずシングル女性はマンションを買いやすくなっているんですよ。さらに女同士で支えあえばシングルでも安心して暮らせるかも。⑦その上結婚しなくても親を喜ばせることができるかも。

[4f 5] 私、正直言いまして、安心したほうですね。

[1f ナ] ⑧のぞむ、のぞまないにかかわらずだれにも可能性のあるシングルライフ、賢い生き方をお伝えします。さ、今増えているシングル女性、そのライフスタイルって今だいぶ変わってきているんですよ。ということで今日は、⑨女のかもねー。はい、シングルでこんなことができる、不安を、かもなどを⑩シングルで生き抜く知恵をお伝えしていきたいと思います。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①では、40代シングル女性に対して結婚しない人生を選んだ人という「a. 前提化」を行っている。戦後最小の既婚者率の提示は、未婚割合が男女ともに増加していることを問題視し、結婚することを当然とする「a. 前提化」を行うためである。②では、生産者世代が最も多い昭和47年の人口構成と、現在の人口構成を単純に比較し、「4割も」と表現することにより、既婚女性数の減少を重大な問題とするための「b. 権威化」が行われている。④では、未婚者だけではなく、既婚者でもシングルになる可能性があることや、シングルになる要因、あるいはシングルに対する「c. 負の側面の焦点化」を行い、不安をあおっている。⑥のシングルでも不動産購入が可能である例は、返済方法や女性であるがゆえに抱えているであろう困難（非正規雇用の多さ、管理職にはなりにくい、介護要員としての期待など）には触れず、リスクを低く見積っている。⑦では、女性が結婚しないことに対して「d. 低評価」を与えるだけではなく、結婚は親のためにも必要であり、女性は結婚するべきであるという規範が示されている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

⑤では、既婚者がシングルになる可能性は、子どもの独立や夫との死別に起因するが、女性

が家族と別れてシングルとして生きていく厳しさは棚上げされ「e. 焦点のすり替え」が行われている。③のシングル女性からの問いかけから始まった情報提供は、⑧の既婚者がシングルになった場合の情報へとテーマがすり替わる「f. 事態のすり替え」が行われている。⑨での、テーマ「女のかもねー」を示すために、終助詞「かも」が多用され、提供される情報が全ての女性に適用されないことを示す「g. 全体の中での部分化」が行われている。⑩の、女性がシングルとして生き抜くためには知恵が必要だという表現は「h. 別事態の焦点化」により、家族を世帯単位とする制度の問題には触れずに解決策を提示していく意図がみられる。

5.3.3. 「生き方」に関わるテーマに介在する意図

『のぞいてみました！あの人のタイムスケジュール』では、主婦を家族のために自分のタイムスケジュールを管理するべき立場にあると者と位置付けている。できない（できていない）人は、時間管理ができていない人から学ぶ形式となっており、前者に多くの視聴者が当てはまると想定している。主婦は、家族のためには手を抜かず、家族とともに過ごす時間を捻出することが家族のためであると決め、家族のために生きるべき規範的な主婦像を既成事実化している。

『いつかあなたも？ イマドキシングルライフ』での冒頭のデータ提示は、近年の既婚女性の少なさを際立たせ、少子高齢化が進んでいる要因に結びつける意図がうかがえる。主婦がシングルになることも他人事ではない、という表現は夫との死別を意味している。離婚や別居は別の事態として扱われており、40代シングル女性の中にいる離婚によるシングル女性は排除されている。女性の結婚は親を喜ばせ、価値あることとして扱い、女性にとっては結婚することこそ普通の生き方だという前提が共有されている。シングル女性として生きることも女性の生き方の一形態であるが、女性にとって結婚は特に重大な選択であるという既成概念は容認されたまま背景化されている。また、男性シングルが扱われないことは、男性が抱える問題を背景に追いやられ、見えなくしている。シングルの生き方として、女性と男性をひとくくりにできないことは、ジェンダーの問題である。

5.4. 「家族」に関わるテーマ

5.4.1. 『みんなに聞きました。家族の嘘』2016年6月7日

(9)

[1f ナ] 特集。テーマは嘘。といっても有名人や企業ではなく一、ぐっと身近なこちら、みなさん。家族の嘘、について今回考えてみたいと思いますよー。例えば、結婚8年目を迎えたFも、義理の実家に帰省したとき、私だけ仕事だと言って、早く帰ってきたことがあります。おかあさん、ごめんなさい。そうなんですよ、①親しき仲には礼儀もあれば嘘

もあるのが事実一。特集、家族の嘘、三つあります。じゃーんこの三項目です。一、②妻の心を蝕む夫のムダ嘘。

(取材VTR開始)

[4f 1] ③息をするのと同じような状態で嘘をついてる。

[1f ナ] その二。④夫の嘘と違って心配な子どもの嘘。

[4f 2] このままいっちゃうと大嘘つきに育ってしまったらどうしようって。

[1f ナ] そして三、こっそりおしえまーす。夫の嘘を見破る方法を。

[4f 3] このニヤニヤ。

[1f ナ] さあまずは、ここからスタートです。⑤街ゆく人に聞くとおおよそ9割ですよ、家族の嘘をついたりつかれたり、することがあるという人は、9割にのぼりました一。

[4f 4] うちの息子があの一大学に行っていると言ってて行っていなかった。

[4m 4] バイク1台買ってるのに、買っていないって嘘ついて夜首絞められて。

[4f 5] 仕事に行くって言って、スーパー銭湯に行っていたってことありました。

[1f ナ] ままね、シャレにならない嘘がある一方で、多かった嘘と言えば一、夫のムダ嘘。

[4m 2] お風呂は、洗ってないのに、お風呂洗ったとか言う。

[1f ナ] 洗ってないのに洗ったと言い張る夫。

[4子ども] 柿ピー食べているのに食べてないって。

[1f ナ] 口から柿ピーの匂いをさせながら食べたことを否定。まさにムダとしか言いようがない。で、そんな⑥夫の嘘にストレスを募らせる妻たちが多かった。

[4f 6] ⑥'しょうっちゅうイラッとしますもの。

[4f 7] ⑥''なんなのってなります。

[4f 8] ⑥'''いやもうバレてるから最初から言えって感じなんで。

[1f ナ] そんな怒れる妻のお一人、N子さんです。夫と高校生の息子と三人で暮らしています。結婚して16年、夫のムダ嘘がアンストッパブルー、止まらないのだそう。

[4f N子] 最初は理解できないなと思ってどう言う気持ちなんだろうとか考えていたんですけど最近はまだこのやろーとしか思わない。(取材VTR終了)

[1f ナ] かなりイラついているご様子です。⑦夫は大手企業の会社員。おだやかで優しい人柄に惹かれ、結婚を決めたのだといいます。しかし生活をともにするようになると、彼はただの夫ではなくムダ嘘をつく夫だったと言うことに気づいてしまいました。いったいどんな嘘なんでしょう。

(再現VTR部分省略)

[4f N子] うちの、無表情になりますから。おそらく嘘を読まれないように無意識にしてい

るんじゃないかと。

[1f ナ] ⑧夫が嘘を重ねるたびにイライラが募ります。そして、イライラしてしまう自分が嫌になってくるのだとか。

[4f N 子] ⑨向こうが嘘をついてるのがそもそも悪いのになんか、回り回って自分が罪悪感見たいな、イライラしてる自分がなんか嫌だなーとか思ったりする、なんかどうしようもなくって。

[1f ナ] ⑩どうでもいい嘘だけど妻の悩みは深いようです。

1) 事態の既成事実化（存在の容認）

①の親しき仲は身近な家族を指す。②④での夫や子どもの嘘の両者に関わる対象は主婦であり、情報を必要とする対象が「a. 前提化」される。⑤では、9割を2度繰り返し、関心の高いテーマとして権威付けている。⑦の夫に関する情報では、夫には社会的信用があり、性格も申し分ないという表現により「b. 権威化」（好印象）が行われている。⑧では、夫の嘘によって妻がストレスを募らせる事態を「c. 負の側面の焦点化」の要因として捉えている。夫の嘘によって引き起こされる妻のストレスを負の感情として扱い、妻が解決すべき問題となる。③⑩ではともに、夫の嘘は目立たず、ささいな嘘だという「d. 低評価」を与えている。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

⑧⑨では、夫が嘘をつく原因は妻（自分）側にあるとし、妻が罪悪感を抱くように「f. 事態のすり替え」が行われている。また、家族の問題は、妻自身（自分）の問題として捉えるべきで、妻であり母である主婦がイライラする感情を抱えることは否定され、解決が求められる。家族の嘘は、ついている当人たちの問題ではなく背景化されている。家族の嘘がテーマであるにも拘らず、⑩によって妻の悩みへの「e. 焦点のすり替え」が行われている。どうでもいい嘘という名付け行為は「g. 全体の中での部分化」であり、夫の嘘を矮小化する。このことにより、妻のイライラが「h. 別事態の焦点化」として問題視される。

5.4.2. 『親が心配 初動が肝心。介護ははじめの一步』2017年3月13日

(10)

[1m] さあ今日はですね、介護について親の介護についての特集なんですけども、①親の介護っていうとちょっと重い話なのかな、難しいかなって思ってしまったそこのあなた。今日はもう気楽に見ていたとしても、この先絶対に役に立つからとりあえず見てどうぞ。

(取材VTR開始)

[1f ナ] ②突然。はじまる。親の介護。あなたは何か備えていますか？

[4f 1] まだ何もしてないです、あはー。

[4f 2] 何から手をつけていいのか、てとこですわー。

[4f 3] 不安はでもありますね、あの子ども私一人だけなんで、遠くに住んでるので。(取材VTR終了)

[1f ナ] 確かに③介護と言っても何が待ち受けているのか直面してみないとわからないのも事実です。そこで、ネットでのアンケートを実施、④介護を経験した人が最初の段階で⑤どんなことに悩み、つまづいていたのか体験談を伺いました。例えば。

(再現VTR開始)

[2f 高齢女性役] 玄関で転んじやって、足と腰を打って。

[1f ナ] そもそも⑥親はどういう状態になったら介護をスタートすればよいのか始まりがわからなかった。介護のスタートはいつ？ ⑦「要介護認定」また要介護認定の調査では。

[2m 調査員役] どんな風に変なんですか。

[2f 高齢男性の妻役] どんな風になって、えー。

[1f ナ] 調査員の質問に対してうまく答えられなかった。

[2f 支援員役] デイサービスに行きませんか？

[2m 高齢男性役] デイサービスはちょっとねー。(再現VTR終了)

[1f ナ] ⑧親の介護への拒否感が強くて、困ってしまった、あらかじめ何をしておくといざというとき役に立つのか、今日は⑨経験者の生の声から学ばせていただきます。さあまずは⑩介護を始めるタイミングがわからなくて困ったというお話から。

1) 事態の既成事実化 (存在の容認)

①では、介護が必要となる親をもつ子世代は、親を介護することと、親の老いを受け止めることに対する抵抗感を抱いていることが「a. 前提化」されている。③では、介護を未知の想像できない事柄と位置づけ、具体的な介護現場の実態や、暗い事態についての言及を避けることにより、介護を低く見積もっている。⑤⑧では、親の介護に伴う悩みやつまづきをマイナスの事態と捉え「c. 負の側面の焦点化」を図っている。⑨で未経験者は、経験者から「学ばせていただく」立場と位置付けられる。謙譲語の使用により④の介護経験者と未経験者の間に上下関係を構築し、経験者は「b. 権威化」される。⑩では介護を、困難をもたらす要因とする「c. 負の側面の焦点化」することにより、親の異変に気付くのは娘（主婦、女性）であり、タイミングを逃さず困らないようにすべきだと示唆している。

2) 事態の非存在化（存在の非容認）

②の介護は突然始まるが、事前に準備や用意できることがあれば、待ち受ける事態に対応できるかのような表現は「g. 全体の中での部分化」による事実を矮小化といえる。⑥では、介護のスタートが分りづらいことを隠蔽し、介護にはスタートがあるという印象を与える「e. 焦点のすり替え」が行われている。⑦では、介護のスタートを手続きの開始にすり替え、調査や手続き、制度の説明への「f. 事態のすり替え」が行われてる。⑩では、介護を始めるタイミングは制度の利用開始と同じ意味として扱われ、介護イコール介護サービスの利用方法へと「h. 別事態の焦点化」が行われ、情報提供の内容が変わっていく。

5.4.3. 「家族」に関わるテーマに介在する意図

『みんなに聞きました。家族の嘘』では、夫の嘘・子どもの嘘は、妻・母親の両者の立場にある主婦に向けた情報提供である。主婦にとって、夫の嘘は見過ごす寛容さが求められ、子どもの嘘は注意するべきだと提案され、妻、母としての規範を再生産する意図が介在している。

『親が心配 初動が肝心。介護ははじめの一步』では、インタビューの回答者が全て女性であり、介護を担うのは女性であるという前提が共有される。ここでは、介護にはスタートや開始のタイミングがあるかのように伝えられ、介護制度の利点のみが示されている。制度の申請手続きを行うことを介護のスタートとして事態をすり替え、介護に関する問題を矮小化している。親の異変に気付く制度利用の手続き行う主体は、老親をもつ娘という前提が共有され、娘による介護の正当性を既成事実化し、女性のケア役割を規範化する意図が介在している。

6. 考察：8つの意図と談話行動のまとめ

冒頭部分の談話を名嶋（2015）の分類を手掛かりに分析した結果、「事態の既成事実化（見せる）」と「事態の非存在化（見せない）」それぞれの談話行動には、性別役割規範を常識化する意図が働いていることが判明した。それぞれの分類において、特徴的な談話行動は以下の通りである。

6.1. 「事態の既成事実化（見せる）」

「事態の既成事実化（見せる）」では、前景化された「a. 前提化」「b. 権威化」「c. 負の焦点化」が示される。番組の冒頭部分の談話「(5.1.) ①憧れのマイホーム、②でも先立つもののお金ですよねー」「(5.3.1.) ①忙しい朝の間に」などの視聴者への呼びかけは、主婦や女性は、家事、家計、家族など“家”を預かる役目にあることを「a. 前提化」し、性別役割分業規範の既成

事実化を図る談話行動となっている。「b. 権威化」を示す例として、「(5.1) ④マイナス金利の影響」は政策としてのおすみ付きを与え、専門家の発言による権威も付与される。他の談話においても視聴者である多くの主婦や女性とは対照的な立場に位置づけられるプロや経験者、主婦であっても特別な人の談話には権威が付与される。これらの談話により、視聴者である主婦は学び手、もしくは未熟な存在として扱われ、下位に位置づけられる。「c. 負の側面の焦点化」では「否定」の事態や状態が取り上げられることにより不安がおられる。負の側面の例として「(5.3.1.) ⑨実はみなさんもあれをやめるだけでイライラから抜け出せるんです」「(5.3.2) ④子どもの将来や夫との死別」など主婦である“みなさん”が陥りやすい失敗や、夫や子を持つ主婦の不安や心配事に焦点を当て、これらを解消するために必要な情報を得るべきだと呼びかけている。情報の受け手である主婦を、問題意識を持つべき存在として位置づけるためである。「(5.3.1.) ③現実とはちょっと違う」とされる権威ある主婦と対比し、あるいは「(5.2.4) ③私には関係ないしー」という発言の挿入により、視聴者である主婦に対して「d. 低評価」を行い、主婦を学びが必要な対象と位置づける。

冒頭部分では、視聴者である主婦を未熟な存在として位置付ける「事実の既成事実化（見せる）」が行われ、共有される。テレビ番組には公共性が伴うため、視聴者は正しい情報として受け入れ、主婦に対する規範は正当化される。主婦以外の視聴者もまた、主婦に対する規範として受け入れていく。冒頭部分では視聴者に対して、性別役割意識を常識として内面化する談話行動が実践されている。

6.2. 「事態の非存在化（見せない）」

背景化された事柄が別の事態にすり替えられる「e. 焦点のすり替え」では、事態に関係する肯定的な事柄が引き合いに出され、別の事態にすり替えられる。例えばタイムスケジュールに関する情報は、個人の時間管理を対象とする情報提供ではなく「(5.3.1.) ⑧家族みんな」「(5.3.1.) ⑧一家団らん」の時間を確保するために、主婦に対する行動変容を促すための情報提供である。プロや経験者の技は正しく、家事には正しいやり方があるかのように示されており、主婦は、番組で提供される正しい方法を家族のために習得するべきである、といった教育的な姿勢が背景に隠されている。「f. 事態のすり替え」では「(5.4.1.) ⑧夫が嘘を重ねるたびにイライラがつのります。そして、イライラしてしまう自分が嫌になってくる」に示されるように、家族の嘘や夫の嘘は、妻（私）のイライラする感情を扱う別の事態へと課題がすり替わり、家族の嘘問題を見えなくしている。困りごとに紐づけられる別の事態は、主婦、女性であれば共感できるであろうというジェンダー規範（家族円満のためには妻が自分の感情をコントロールすることや子どもの教育には母親が大切）のような慣習が背景化されている。「g. 全体の中

での部分化」では、一部の事柄に焦点を当て、全体が見えなくしているが、元の事態はそのままである。例えば、「(5.2.1.) ③図書館には暮らしのお困り解決の達人がいるんです」「(5.3.1.) ⑥毎日おかずたっぷりの朝ごはん」など、暮らしの中で生じる困りごとや理想的な朝ごはんの話題は共感を呼び、主婦、女性と家事との関係を強めている。「h. 別事態の焦点化」では、元の事態が見えなくなり、関連はするが別のことに焦点が当てられる。本来の事態（生活の中の困りごと）から外れた周辺の事態を取り上げ、主婦、女性であれば生活の中で感じる困りごととして容易に連想できる談話が続けられる。「(5.2.4.) ②今の人工知能は感情豊か。コミュニケーションもとれるんです」によって、主婦、女性にとっても先端技術は身近であるという印象を与え、家事や家庭内においても有用であることが示唆されている。しかし、女性は先端技術には疎いというジェンダー・バイアスと、未来においても主婦、女性が家事を担い続けるという性別役割分業意識は背景化されている。主婦にとって、生活や家庭の中での困りごとから目を背けず解決のための情報を得ることは重要だ、と伝える談話の背景には主婦や女性に対する性別役割規範が張り付いている。世間から望まれる主婦役割を全うできる主婦像を作り上げようとする談話行動と言える。

また、『5.3.2. いつかあなたも？ イマドキシングルライフ』では、男性にとってもシングルで生きることは問題となるはずであるが、触れられていない。女性のみを扱うことにより、男性の問題ではないという意図が働き、男性シングルの非存在化を図っている。

6.3. 正しさを際立たせるための上下関係の確立

調査期間の当該番組は、主婦に対する情報提供を行い、困りごとを抱える主婦に対して役立つ情報を提供することを目的としていた。その目的を遂行するために、視聴者である主婦は困りごとを抱えていることを前提としていた。千差万別であるはずの困りごとを、主婦あるいは女性であれば関心を抱く課題として扱い、主婦や女性は家族のために、生活の中で生じる困りごとを解決すべき人というアイデンティティーの構築を行っていた。番組の視聴者である主婦や女性は、番組に登場する専門家や有識者、経験者から与えられる情報を家庭内や家族のために実践することが望まれる立場と位置付けられていた。家事を手際よくこなし、子育てや介護の情報を知っていて、家計もしっかりと管理できる人を立派な主婦として肯定することにより、主婦に対するイデオロギーが再生産され続ける仕組みとなっている。

生活情報番組とは、家庭生活で役立つ情報を扱うものである。制度や政策の枠組みが及ばない家庭内での主婦や女性による無償労働やケアワークを扱う過程の談話には、性別役割を肯定する意図が含まれている。これらの規範は、時には前景化され、時には背景化されながら、発信される言葉に張り付いている。生活情報番組の談話には、主婦や女性、それ以外の視聴者に

対しても性別役割意識の再生産を促す談話行動の実践が組み込まれている。

ジェンダー・イデオロギーは、固定的なものではなく、女性の人生のステージごとに流動的に変わるものでもある。しかし、主婦に対する規範は、常に家族のための人というアイデンティティーが確立され正当化され続ける。

7. おわりに

本稿では、テレビの生活情報番組内の冒頭部分の談話を分析してきた。主婦、女性、妻、母親など女性に対するジェンダー・イデオロギーは周知の事実として正当化され、再生産されていることを明らかにするために談話行動を分類し、分析を行った。分析対象とした番組の冒頭部分では、家庭生活には社会の側からみて望ましい形があることを提示するために、個人の生活に介入する手段として既成事実化や非存在化を図る談話行動が示されていた。生活情報番組では、家族（世帯）を重要な単位として扱い、情報提供を行っている。このような情報提供に用いられる談話行動は、家族に関する制度や規範を社会に浸透させる社会的実践と言える。主婦や女性の生き方について、見える形、見えない形で規範や常識が張り付いた言葉が発信されていることに、情報の受け手は注意する必要がある。ジェンダー・イデオロギーが再生産され続けることは、女性だけではなく男性の生きづらさにも関わることであり、多様性を認め合える社会づくりのためにも取り組まなくてはならない課題である。誰もが、テレビの視聴によって簡単に情報を得ることができる。これらの情報の中に含まれる性別役割を正当化する談話行動の実践を解明することは、ジェンダー平等社会を実現するために必要な言語研究の一つである。

今後は、冒頭部分に続くメインテーマ部分の談話についても分析し、データ採集年度の社会情勢との関わりについての分析を進めていく。

【注】

- 1) SDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成され、ゴール5は「ジェンダー平等を実現しよう」である。（外務省<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html> 2021.8.4）
- 2) 大阪府男女共同参画グループ（2020）によると、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『同感する』（「そのとおりだと思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合）は 34.0 %、『同感しない』（「どちらかといえばそう思わない」と「そうは思わない」を合わせた割合）は 64.8 %となっている。性別で

- みると、『同感する』は、女性 29.4%、男性 40.9%で、女性の方が 11.5 ポイント低くなっている。
- 3) ディスコースの単位は、語と語の結びつきによる文よりも大きな単位であるとされる。本稿では、ディスコースの内容を精査していく上で、批判的談話分析の立場をとり、ディスコースを「言語的な社会的実践」(ヴォダック 2010, 97) と捉え、性別役割を構築する内容、または前提が組み込まれている部分を分析対象とする。本稿ではディスコースの邦訳である「談話」を用いる。
 - 4) CDS=critical discourse studies、批判的談話研究 (ヴォダック&マイヤー 2018: 2)
 - 5) 2018 年 3 月末までの NHK の HP では「社会問題、政治の話題から、エンターテインメント、生活実用情報まで、主婦の皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ」と掲載されていたが 2019 年 4 月より、メインキャスター交代により「生活実用情報はもちろん、社会問題や政治などのジャーナルなテーマからエンターテインメントまで、皆さんが一番気になるテーマを毎日ピックアップ。」となり、“主婦”は“皆さん”に変更されている。
 - 6) 肩書は 2016 年度当時のものである。
 - 7) 大阪府の府民意識調査 (2020) では「日々の家計の管理をする役割を男性・どちらかと言えば男性では 2.4%、両方同じ程度は 43.3%、どちらかと言えば女性・主に女性の役割では 47.1%」になっている。
 - 8) 「家族の予定を調整する」は国立社会保障・人口問題研究所 (2019 年 9 月 13 日)『2018 年社会保障・人口問題基本調査 第 6 回全国家庭動向調査 結果の概要』に分類される多くは主婦が担う「5 種類の「見えない家事」(「食材や日用品の在庫の把握」、「食事の献立を考える」、「ごみを分類しまとめる」、「家族の予定を調整する」、および「購入する電化製品の選定」)」(2019: 20-21) に含まれている。

参考文献

- 石井正彦・孫ヨンソク (2013)『マルチメディア・コーパス言語学—テレビ放送の計量的表現行動研究』大阪大学出版会。
- 大原由美子 (2002)「メディアにおけるジェンダーイデオロギーの再構築と維持」『日本語科学』11, pp.145-158.
- 中村桃子 (2001)『ことばとジェンダー』勁草書房。
- 名嶋義直 (2015)「福島第一原子力発電所事故に関する新聞記事報道が社会にもたらす効果について一見出しが誘発する読者の解釈」名嶋義直・神田靖子 (編)『3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える』ひつじ書房, pp.199-239.
- 名嶋義直 (2018)「批判的談話研究をはじめる」ひつじ書房。
- 野呂香代子 (2015)「「環境・エネルギー・原子力・放射線教育」からみえてくるもの」名嶋義直 (編)『メディアのことばを読み解く 7 つのころみ』ひつじ書房, pp.53-100.
- Fairclough, N. (2003) *Analysing Discourse: Textual analysis for social research* (=2016, 日本メディア英語学会メディア英語談話分析研究分科会 (訳)『ディスコースを分析する 社会研究のためのテキスト分析』くろしお出版)。
- Jäger, S. (2001) *Discourse and Knowledge: Theoretical and Methodological Aspects of a Critical Discourse and Dispositive Analysis*. In Wodak (Ed.), *Critical Discourse Analysis* (=2010, 山下仁 (訳)「談話と知—批判的談話分析および装置分析の理論的、方法論的側面」野呂香代子 (監訳)『批判的談話分析入門 クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, pp.51-91)。
- Ohara, Yumiko (2000) *A Critical Discourse Analysis: Ideology of Language and Gender in Japanese*.

Ph.D. dissertation. University of Hawaii at Manoa.

Van Dijk, T. (2001) Multidisciplinary CDA: A Plea for Diversity: Theoretical and Methodological Aspects of a Critical Discourse and Dispositive Analysis. In Wodak (Ed.), *Critical Discourse Analysis* (=2010, 服部圭子 (訳)「学際的なCDA 多様性を求めて」野呂香代子 (監訳)『批判的談話分析入門 クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, pp.133-166).

Wodak, R. (2001) What CDA is About - a Summary of its History, Important Concepts and Its Developments. In Wodak and Meyer (Ed.), *Methods of Critical Discourse Analysis*. SAGE publication, London (=2010, 山下仁 (訳)「批判的談話分析とはなにか? CDAの歴史、重要概念と展望」野呂香代子 (監訳)『批判的談話分析入門 クリティカル・ディスコース・アナリシスの方法』三元社, 2010, pp.9-50).

Wodak, R., Meyer, M. (2018) Critical Discourse Studies: History, Agenda, Theory, and Methodology, Wodak and Meyer (Ed.), *Method of Critical Discourse Studies*. SAGE publications, London (= 2018, 野呂香代子 (訳)「批判的談話研究 歴史、課題、理論、方法論」野呂香代子, 神田靖子 (他訳)『批判的談話研究とは何か』三元社, pp.1-32).

参考資料

『あさイチ』NHK 総合 (テレビ番組)

- “どっちが得? 今こそ知りたい住宅ローン”2016.4.25.
- “スゴ技Q知って得する図書館活用術” 2016.4.26.
- “のぞいてみました!あの人のタイムスケジュール” 2016.4.27.
- “スゴ技Q 身の回りピカピカ大作戦” 2016.5.10.
- “もっと得する!フライパン向上委員会!” 2016.5.25.
- “家事も恋も? 今こそ知りたい“人工知能””2016.5.30.
- “いつかあなたも? イマドキシングルライフ” 2016.6.1.
- “みんなに聞きました 家族の嘘” 2016.6.7.
- “冷凍食品完全マニュアル” 2016.10.31.
- “親が心配 初動が肝心。介護ははじめの一步” 2016.3.13.

NHK 番組アーカイブス第3回学術利用トライアル (2016年9月6日~11月15日)

NHK 大阪放送局.

大阪府男女共同参画グループ (2020)『男女共同参画に関わる府民意識調査 令和元年度』大阪府.

参照ホームページ

『あさイチ』旧NHK ホームページ 最終アクセス2017年3月22日.

『あさイチ』NHK ホームページ<http://www1.nhk.or.jp/asaichi/about/index.html>
最終アクセス2020年4月22日.

国際連合広報センターホームページ

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development

/2030agenda/ 最終アクセス2021年8月4日

国立社会保障・人口問題研究所（2019）『2018年社会保障・人口問題基本調査 第6回全国

家庭動向調査結果の概要』http://www.ipss.go.jp/pskatei/j/NSFJ6/Kohyo/NSFJ6_gaiyo.pdf

最終アクセス2020年8月16日

外務省ホームページ

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html> 最終アクセス2021年8月4日

（博士後期課程学生）

（2021年8月18日受付）

（2021年9月19日掲載決定）